

では、お点前拝見

長崎短大 市民に学習成果披露

長崎短大（佐世保市椎木町、安部恵美子学長）の茶道大会が8日、佐世保玉屋などで開かれ、学生による茶席で市民らが茶の湯を楽しんだ。

同短大の必修科目として学生が茶道を学んだ成果を発表、市民に茶道文化に親しんでもらおうと毎年実施。



茶道大会でお茶をたてる学生（右） 佐世保玉屋

佐世保玉屋では、和服姿の学生たちが「濃茶席」を披露。尺八の音色が流れる落ち着いた雰囲気の中、学生が丁寧な所作で道具を拭いたり抹茶を混ぜたりしてお茶をたててもてなし、茶器や掛け軸について客からの問いかけに答えるなどしていた。

市内のホテルでは韓国や台湾の学生による茶席もあり、にぎわった。

（板倉聖教）



学んだ「茶の心」で来場者おもてなし

長崎短大生

「茶道文化」を全学生の必修科目としている長崎短大

期大（佐世保市椎木町、安部恵美子学長）が8日、学んだ成果を地域で披露する「茶道大会」を佐世保玉屋など2カ所で開催した。

2年生を中心とする約400人が和服姿で約1200人の来場者をもてなした。写真。学生たちが学ぶ平戸松浦藩の茶道・鎮信流の宗家、松浦重さん（20）は「若い方々が一生懸命学ぶ姿は心強い」と激励した。

お点前を披露した2年生の高梨那弥さん（20）は「宗家の方々が温かく見守ってくださったので落ち着いてできた。悔いが残らぬよう卒業までやり遂げたい」と話した。

台湾や韓国・釜山からも学生が訪れ、それぞれの茶道を披露。学生同士の交流を深めた。